

苗立確保のポイントと水管理 (乾田直播)

- (1) いわみざわ地域の播種適期は5月5～11日とします。
- (2) 播種後は速やかに入水(灌水)します。(播種後4日以内)
- (3) 再入水は土壌表面が白くなり乾燥してからです。
- (4) 24時間以上の水の停滞は、酸素不足を招き、催芽途中の種子を死滅させます。



① 初入水は速やかに。この水分は24時間後にはない状態がベスト。



② 表面が乾くことが大切。良好な発芽には酸素が必要。



③ この状態をキープ、降雨量の多いときは、排水します。



④ この滞水状態を24時間以上続けてはならない。



⑤ **Point1**
均平が不十分、移植田に隣接した場合は溝を切り停滞水の除去に努めましょう。



⑥ **Point2**
多雨又は停滞水が抜けられない場合は、暗渠孔を開けるなどして、水の停滞を防ぎます。靴の跡。このように1度乾かす(酸素供給)ことが、良い苗立ちにつながる。



⑦ **Point3**
発芽始には根の状態と土壌水分を確認。



⑧ **Point4**
発芽始～2葉期までの深水や停滞水は、芽を死滅させます。

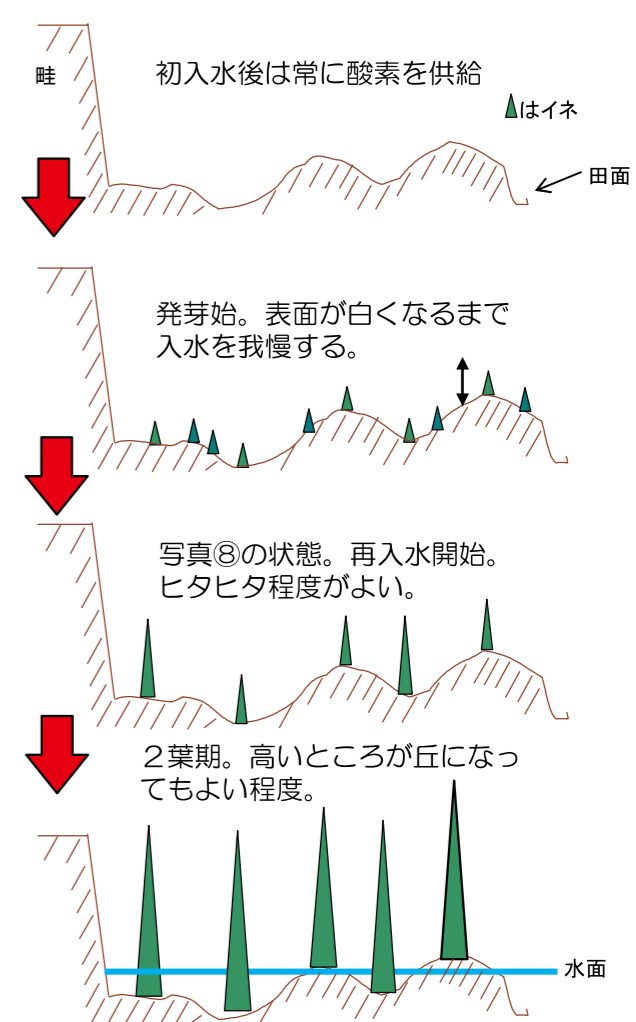


⑨ **Point4**
発芽始～2葉期までの深水や停滞水は、芽を死滅させます。



⑩ 気温上昇が予測される日の前日の夕方に入水開始!
ほ場の隅々まで水を行き渡らせようとすると、水が多く入りがちです。水田8割程度水が乗ったら、入水を止めることが水管理のコツです。

Point5
再入水(2回目の入水)は一度ほ場の表面を乾かしてから行います。



⑪ 乾田直播の場合のH18～20年の3年間の苗立率の全体平均は50%弱。良い人でも60%程度です。このことから播種した種子の半分は、死滅すると考えた方が良いでしょう。

直まき10俵どり
指南書
1章
efficacy
2章
point
栽培技術のポイント
3章
schedule
4章
the yield
5章
word
6章
news
7章
editor's note
17

直まき10俵どり
指南書
efficacy
2章
point
栽培技術のポイント
3章
schedule
4章
the yield
5章
word
6章
news
7章
editor's note
18